

# 横浜ゴムのサステナビリティ

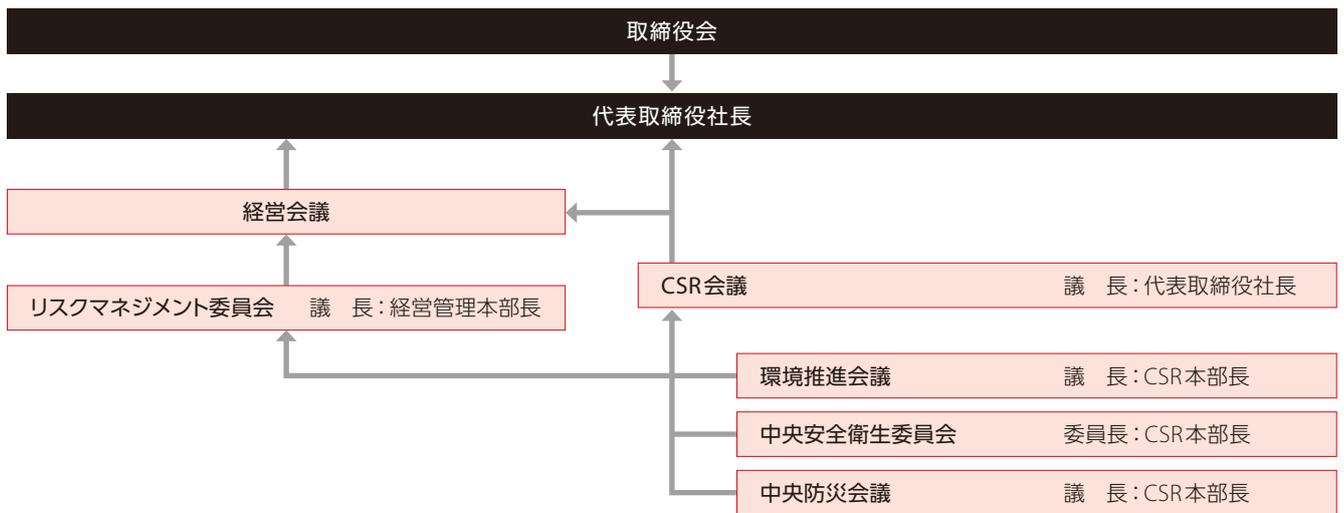
横浜ゴムグループは「社会から揺るぎない信頼を得ている地球貢献企業」をCSR経営ビジョンとして制定し、世界各地のステークホルダーと協調しながら企業活動を展開しています。またCSRスローガンとして「未来への思いやり」を掲げ、事業活動を通じた社会課題への貢献を持続的な企業価値向上につなげるべく、マテリアリティ(重要課題)に沿った取り組みを推進しています。

## ガバナンス

代表取締役社長が議長を務め、社内取締役(社内取締役監査等委員を含む)全員が出席するCSR会議を年に2回(5月・11月)開催し、横浜ゴムグループが取り組むべきCSR課題(環境、労働安全衛生、防災、品質、社会貢献等)について立案・検討する体制を整えています。個別のCSR課題について立案・検討する会

議体としては、環境推進会議、中央安全衛生委員会、中央防災会議が設置され、より詳細な計画、施策を立案し、実行しています。また、CSR課題のうち、重大かつ緊急性の高い事案については、リスクマネジメント委員会と連携して対処しています。

### ▶ CSR・サステナビリティ推進体制図



## 戦略

横浜ゴムは、2008年、CSR・サステナビリティ経営を進捗させるために、CSR経営ビジョンおよびCSR行動指針を定め、責任部門としてCSR本部を設置しました。さらに2014年には、国連グローバル・コンパクト分野10原則などの国際規範をもとに「横浜ゴムグループ行動指針」を制定、自社とステークホルダーの双

方にとって影響が大きく、関心の高いテーマをマテリアリティ(重要課題)として特定し、その達成のためにPDCAサイクルを回して、継続的改善を図っています。創立100周年にあたる2017年にはCSRスローガンを制定し、次の100年に向けてさらなる持続的な成長の実現を目指しています。

**CSR経営ビジョン**

「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる」

**CSR行動指針**

- 変化し続ける社会動向をつかむ
- 迅速に行動しゆるぎない信頼を得る
- 貢献できる課題を見極める
- 一人ひとりがCSR当事者として行動する

**横浜ゴムグループ行動指針**

- 社内外を問わず人権を尊重します
- 透明性の高い企業活動を行い、適切に情報を開示します
- 安全で健康な職場をつくります
- 法令のみならず社会規範を守ります
- 地球環境との調和を図ります
- 地域社会との共存共栄を図ります
- 安全・高品質な製品・サービスを提供します

**CSRスローガン**

「未来への思いやり」

**マテリアリティ(重要課題)**

- 製品を通して 安心と楽しさをいつまでも届けます
- 地域社会と共に 共に生き、ゆるぎない信頼を築きます
- 地球環境のために 豊かな自然を次世代へ伝えます
- コーポレートガバナンス グローバル化する社会的課題に正しく対処するための基盤を強化します
- 人とのつながり 共に高め合い笑顔を広げます

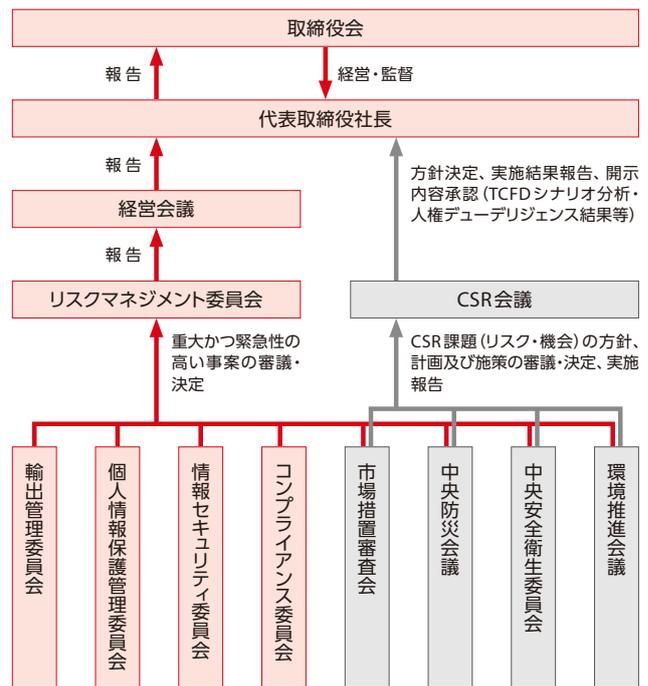
**リスク管理**

当社を取り巻くさまざまなリスクからの防衛体制を強固にするため、経営管理本部長を議長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、経営に重大な影響を及ぼすリスクを横断的に管理し、適切に評価対応しています。

また、環境、労働安全衛生、防災・BCP、品質管理、コンプライアンスなどの重要度の高いリスクに関しては、それぞれを専門に統括する部門と会議体を設置して重点的に管理する体制を取っており、事業活動におけるリスク管理体制の強化を図っています。

「リスクマネジメント委員会」「コンプライアンス委員会」等の活動状況は取締役会に定期的に報告され、その他の会議体の活動状況についても経営会議に適宜報告され、必要と判断されたものは取締役会に報告されます。

➤ リスクマネジメント体制



**ESGに関する外部評価**



「FTSE4Good Index Series」に18年連続で選定



FTSE Blossom Japan Index

「FTSE Blossom Japan Index」に6年連続で選定



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定



「CDP気候変動レポート2022」の最高評価Aリストに4回目の選定